

鶴岡農業の現状を知り、今後の方向性を探る 農業者等との 意見交換会を開催

農業委員会が主催し、毎年開催しているこの意見交換会は、「農業委員会等に関する法律」の規定に基づき、農業の最前線で活躍されている方々の意見・要望等を集約し、本市の農業施策に反映させることを目的に実施しているものです。

平成29年2月8日、グラウンドエル・サンを会場に、「平成28年度農業者等との意見交換会」が開催されました。市議会産業建設常任委員、市認定農業者会議役員、JA関係者、女性農業者、新規就農者、農業委員など約50名が参加し、鶴岡の農業について意見交換を行いました。

当日は意見交換会に先立ち、(株)あつみ農地保全組合・統括管理部長の佐藤昌幸氏より休耕田の未然防止と復旧を目的としながら、



佐藤 昌幸氏

地域の人・物を活用した地域農業の再生を試み、全国的に注目されている活動に關した講演が行われました。(なお、佐藤氏は同社での活動が評価され、営農指導員の優れた取り組みを表彰するJA営農指導実践全国大会で最優秀賞の栄冠に輝いています。)

(株)あつみ農地保全 組合の取り組み

温海地域は地区の総面積の約9割が山林ということから、耕作不便な奥地から次第に休耕田が増えていき、それに伴い病害虫や鳥獣被害が増加し、生活環境に悪影響が及んでいました。それに対し地域での熟慮を重ね、佐藤氏を中心にして「農地の最後の受け手」として平成26年に同社が設立されました。

同社では地域の自己保全田、休耕田を借り入れたうえで地域の人を雇用し作物を植え、その収入で賃金を払い、かつ所有者には地代を払うという、「ワイン・ワイン」の関係を地域内に構築しました。昨年の実績では91戸から約32戸を受託して、水稲、大豆を中心に14品目を栽培したほか、わらびポット苗、きくらげ、青こごみなどの山菜、大豆の加工等、6次産業化にも取り組んでいます。それに

より地域に45名の雇用が生まれ、1680万円の賃金が支払われました。

農業をビジネスとして分析し、地域内循環を達成できるよう実践していくには佐藤氏の構想力、情熱やリーダーシップが不可欠であったと思われます。佐藤氏と同社の活動は本市のみならず、全国的な規模でのケーススタディになると思われました。

(農業委員 鈴木 裕)



講演に引き続き、「食文化」「農地集積」「担い手対策」をテーマに、参加者による意見交換を行いました。

意見交換会で 思ったこと

・食文化について

「聞いたことがない。」「興味がない。」「盛り上がっていない。」「などの消極的な意見が聞かれた。日本のどこにあるかも知れない」「ど田舎の町」とって、国際機関や農林水産省からの認定を受けたことを大いに利用して、周囲に対して大々的に自己PRするくらいの気概が欲しいものである。また行政側でも専門家の派遣や補助金を期待するだけでなく、地元の特産物の育成が必要であると思った。

そもそも食文化とは、その地に暮らす人々がそれぞれの食生活で、それぞれの食材を楽しみ、盛り上がっているものであり、その食文化が珍しがられることは危ういことだと思う。伝統食や行事食がファーストフードに駆逐されていく。文化は人に依存されるもの

で、博物館にとつておくことはできない。人から人へ伝承するしかないのだが、それができなくなっていることを強く感じた。

・担い手対策について

すべてのテーマにおいて新規就農者の発言が光っていた。硬直した「ベテラン」農業者・行政マンをはっきりさせ、情熱を呼び覚ますものであったように思う。素晴らしい担い手が鶴岡に存在している。彼らを大きく育てることが肝心である。また、定年帰農者の就農も期待できる。企業で培った管理スキルやマネージメント能力を農業経営と農村運営に反映してくれたら農村はもっと住みやすくなるだろう。

今、何の担い手が必要とされているのだろうか。土地の？経営の？作業員としてか、マネージャーとしてか。家の担い手か、日本の担い手か。ベテランは熟考し、若者は飛び越えてほしい。いずれのテーマにおいて

も共通することは、「鶴岡人の宣伝下手」というか、知らない人には知らせない態度だ。また、新規の人は「どこに行けばいいかわからない。」と言う。いまはITがあるんだから発信に、受信に使えばいいじゃないか。

50^代で妻子を養っている人もいるんだから、それぞれの経営スタイルがあつていいのだと思う。家族を養えさえすればゆつくり生きるライフスタイルを基本にして、そこから地域で生きていく方策を考えればいいんじゃないかと思う。意見交換会から感じた所見でした。

(農業委員 木村 充)



意見交換会では、次のような意見が交わされましたので、ご紹介します。

食文化について

◆食文化の実感がない。オール鶴岡でネーミングを売ってほしい。

◆食文化について伝わってこない。

◆親に対しての食育を行ってほしい。

◆農業委員会の取り組みとして、保育園等で食育教室を行っている。

◆安心安全の観点から、市独自の有機認証は貴重であると感じている。



担い手・農地集積について

◆多くの家から借りていると、条件の悪い農地もついてくる。地域の農地を守っていくには手のかからない土地利用型にならざるを得ない。中間管理機構を通すと賃借料の支払いが楽である。

◆若者は花などの施設園芸に取り組む人が多く、水稲を担う者が不足してきていると感じる。

◆家族農業は将来的に限界がくるのでは。今は法人化の流れになつている。園芸もいいが水田を守ってほしい。

◆担い手確保のため、定年退職した者を就農させる取り組みもよいのでは。

◆集積だけでなく、集約も必要と感じる。

◆世代交代する前に、後継者となる者への意識付けが大事ではないか。

◆新規就農者も水稲が出来るようサポートしてほしい。

その他

◆農業の関係機関がどこでどんなことをやっているのかよくわからないので、業務等について勉強の場がほしい。

◆今の若者は収入より、自然・生きがいなどを重視している者が増えている。もっと農業の良さを伝えてほしい。



農業委員会では、この意見交換会を通じて農業者の意見を集約し、関係機関への意見、要望を続けていきます。
ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。